

特集：卵子学会トピックス2018

生殖医学の発展には多くの基礎的な研究が多なる貢献をしてきた。未だに解明されていない事象は数多く存在し、それが生殖医学の限界の一因となっている。臨床のみを行っている者にとっては、基礎研究は難解で興味があまりわからないという方も昨今は多い。しかし、それぞれの治療法や技術の背景となっている基礎的な知見に精通することは、より深い臨床ができることにつながり、また自ら疑問をもち新たな治療法や技術を開発にもつながる可能性がある。その結果、更なる生殖医学の発展が期待される。

生殖医学、特に配偶子関連の領域は、ヒトの配偶子を用いた研究が倫理的な観点から限界があるため、マウスなどを用いた動物試験が中心的な役割を果たしている。本邦には世界の第一線で優れた配偶子関連の研究をしている研究者が数多くいる。2018年の卵子学会では、その研究者を招聘して最先端の研究成果を紹介してもらった。そのうち特に興味深い、精子関連の研究2題、卵子関連の研究1題、さらにES細胞を含む生殖細胞系列関連の研究2題について、本誌においてわかりやすく解説していただいた。

現在、研究業績の論文は英語が中心となっているため、日本語による最新の基礎研究成果の解説を読むことができる機会は少なくなってきている。そのような背景の中、本誌は日本語での解説を提供している。是非、多くの読者にこれらの論文を読んでいただき、明日からの日常臨床および基礎・臨床研究に役立てて欲しい。

日本卵子学会編集委員会
河村和弘